

武蔵大学・大学同窓会共催 武蔵大学 第65回土曜講座

2023年

受講料
無料

11月18日(土) 14時~16時

8号館7階 8702教室

第1部 人生100年時代。二度や三度の挫折は恐れるに 足らず!

中川 陽介 (第33回経済学部経済学科卒、映画監督)

大学卒業後、就職した雑誌業界は大盛況。しかしバブル崩壊。デスクを勤めていた若者雑誌も廃刊に。早期退職者募集に応じ夢だった映画業界へ。これが一度目の転換期。退職金で撮った映画『青い魚』がベルリン国際映画祭に正式招待。以降、長編映画を五本監督。『群青 愛が沈んだ海のいろ』は20世紀フォックスと組んだ初のメジャー作品となるも完成後「燃え尽き症候群」となり、映画界を去る。失意のうちに選んだ次の職業は「農家」。これが二回目の転換期。三年目よりようやく収入が安定。思い出したのが農業の師匠から言われた言葉。「農業は人生の目的じゃない。生きるための手段。三線や踊りといった芸ごとでも、趣味でもいい。何か生きがいを持って」と。生活が安定しその意味を悟る。そこで、もう一度映画に挑戦。これが三度目の転換期で現在に至る。

第2部 映画は時代と人生の羅針盤

永田 浩三 (社会学部教授)

現在、社会学部メディア社会学科で、映像の社会史やドキュメンタリーの進化について講義するとともに、ゼミでは学生たちにドキュメンタリーの制作を教えています。映画は、人生を豊かにする宝箱、時代を知るための羅針盤であり座標軸です。中川陽介監督がご自身の人生に引き付けてお話になるのに合わせて、わたしもまた、時代と人生における映画の持つ意味についてお話したいと思います。高校時代、初めて映画というものに出会いました。チャップリンの喜劇の奥に何かがあるかを知り、水俣病を記録したドキュメンタリーに圧倒されました。大学時代に見た『旅の重さ』や『男はつらいよ』のシリーズは、その後の進路を決める決定打となりました。NHK時代は、NHKスペシャルなどのドキュメンタリー番組の制作に明け暮れる中、黒澤映画の秘密にも接しました。武蔵大学に来てからは自分でドキュメンタリー映画の監督をしたり、プロデュースすることも増えました。今年は何東大震災から100年。話題の映画『福田村事件』(森達也監督)についても、一緒に考えていきましょう。

■本講座は事前予約制です。(先着申込順、11月8日(水)締切)

〈お申込み先〉 (株)武蔵エンタープライズ

<https://web.634.co.jp/>
E-mail: direct@634.co.jp
FAX: 03-5984-3787

■お問合せ先

TEL: 03-5984-3785

※同窓生の方は同窓会事務局にお申込みください。
同窓会事務局 TEL: 03-3991-8453



武蔵大学